

アナログプレイヤーの比較試聴(31)

—モーツアルトを聴く(31)—

1. 始めに

前報(30)に引き続き、アナログプレイヤー3機種と比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種の試聴経路は、ThorensTD124とGrrad401の再生経路を変更した前報(18)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回はピアノ協奏曲とピアノソナタです。

LONDON K38C 70032

モーツアルト ピアノ協奏曲 27番

ピアノソナタ 11番

ウイルヘルム・バックハウス (ピアノ)

カール・ベーム指揮ウイーンフィル

LONDON SLA 1071

モーツアルト 2台のピアノのための協奏曲変ホ長調

3台のピアノのための協奏曲へ長調

ウラディミール・アシュケナージ (ピアノ)

ダニエル・バレンボイム (ピアノ)

フォー・ツォン (ピアノ)

ダニエル・バレンボイム指揮イギリス室内管弦楽団

今回も、各プレイヤーにターンテーブルアキュライザーTACU-1を使用していきます。また、LINN LP-12の再生系では、ダンパーフレークの導入(1)で報告したダンパーフレークを2ヶ所に適用しています。さらに、ダンパーフレークの導入(3)で報告したTruPhaseから300Bアンプに介在させたバランスアナログアキュライザーの出力側へのダンパーフレークを適用していますし、LINN LP-12のターンテーブルシートにはダンパーフレークの導入(9)で報告したとおりダンパーフレークを適用しています。

また、ダンパーフレークの導入(5)で報告したとおりThorensTD124とGrrad401のカートリッジシエルにもダンパーフレークを適用しています。

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

両盤とも、DECCA、逆相、第4時定数 High で聴いて行きます。

バックハウス盤は、TohrensTD124 では、TACU-1 とカートリッジのシェルへのダンパーフレイクの効果が効いて、バックハウスの力強く勢いのあるピアノリズムが披露されます。

LINN LP-12 では、TACU-1 とカートリッジのシェルおよびターンテーブルシートへのダンパーフレイクの効果が効いて、バックハウスの恐らくはベーゼンドルファーの厚みがあって輝かしい魅力が聴けます。

Grrad401 では、TACU-1 とカートリッジのシェルへのダンパーフレイクの効果が効いて TohrensTD124 同様バックハウスの打鍵の力強さが再現されています。

2台のピアノのための協奏曲と3台のピアノのための協奏曲は、TohrensTD124 では、TACU-1 とカートリッジのシェルへのダンパーフレイクの効果が効いて明るく生き生きと2台あるいは3台のピアノが対話しながら進行します。

LINN LP-12 では、TACU-1 とカートリッジのシェルおよびターンテーブルシートへのダンパーフレイクの効果が効いて、繊細かつ響きの豊かな2台あるいは3台のピアノの掛け合いが聴けます。

Grrad401 では、TACU-1 とカートリッジのシェルへのダンパーフレイクの効果が効いて、2台あるいは3台のピアノの響きも豊かで、ピアノの掛け合いが生き生きとしています。

4. まとめ

TohrensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した結果も、3機種3様の再生パフォーマンスが確認できましたが、さらに、カートリッジのシェルへのダンパーフレイクの適用効果もあって、すべてにおいて、グレード上がってきている印象です。

以上